

明日は青空

中平ひとし事務所会報

岩手県議会議員

中平ひとしの活動報告

県政報告版

発行
中平ひとし事務所

発行者
中平ひとし

久慈市本町1-7

政治をより身近なものに...

中平ひとし

大変ごぶさたしておりますが、皆様におかれましては、つつがなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。県議会議員として、2度目の一般質問の機会を得、県政課題、地域課題を提起しながら、質問させて頂きました。今回の会報は6月30日の一般質問の要旨を中心に作成いたしました。是非ともご拝読いただき、皆様からのご意見を頂ければと思います。

また、先日行われました、参議院選挙に際しましては、皆様からのご支援のもと、民主党所属の県議会議員として活動させて頂きました。結果は岩手県選挙区において主浜りよう氏、比例区において工藤堅太郎前衆議院議員の当選という、所期の目的を達成できました。あらためて心より御礼申し上げます。

参議院選挙のひとつのテーマとして、「政治とは誰の為にあるのか」ということが大きな争点ではなかったでしょうか。政治とは有権者一人一人のものであります。そして皆様と一緒に創り上げていくものであります。

今回の選挙における投票率は、県平均63パーセントという決して高いとはいえない結果でありました。選挙期間中に、あるマスコミから、「有権者の政治離れ、特に20・30代の若い世代の政治離れの原因をどうとらえるか」との取材を受けました。県議会議員最年少ということ、また一般質問で低投票率について質問したことが、取材の理由だったようです。私は「政治は社会のあらゆる面において密接な関係にある。年金に代表される社会制度の問題から、携帯電話の不感地域の解消の問題まで、直接に政治が関係している。しかしながら、そのことが知られていない、また政治家自身もあえてそのことを詳しく説明しようとしてこなかったのが原因ではないか。有権者一人一人の意識改革も必要であるが、政治がより身近なものにならないければいけない」と考えています。残念ながらも、抱いている結果が、今回の参議院選挙であらわれ、抱いては考えています。皆様の声も一期目の反映されたところから、今後の参議院選挙で政治に反映されたいかなければなりません。私も一期目の議員でありませんが、県政、地域の発展のために、皆様からのご指導を頂き、今後とも活動するために、皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。



抱いては考えています。皆様の声も一期目の反映されたところから、今後の参議院選挙で政治に反映されたいかなければなりません。私も一期目の議員でありませんが、県政、地域の発展のために、皆様からのご指導を頂き、今後とも活動するために、皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

参院選・ご支援に感謝

第20回参院選は多くの皆様のご支援により、県内4選挙区（衆議院）とも相手候補を上回り、民主党公認・主浜りようさんが初陣を飾りました。また比例代表に出馬した工藤堅太郎さんの両氏が、3年前の平野達男さんに続いて参院初議席を得ることが

できました。

この結果民主党岩手県総支部連合会が、擁立した選挙区、比例代表ともに勝利することができました。

ご支援いただいた全ての方々に、心から感謝申し上げます。

参院選 マニフェスト

与野党ともに中間試験の性格

三位一体改革—国VS地方の争点



一般質問の中平



増田寛也知事

質問

先の参院選における各政党のマニフェストに対する知事の所見を伺う。

知事答弁

政権与党には、昨年秋季の総選挙から8カ月余を経過し、達成状況を検証し追加・補正すべき政策を提示したものの。

一方野党のそれは、総選挙の結果を踏まえ、内容を見直し、改めて提示したものと認識する。いわば「中間試験」の性格をもつもの。国民が各党の政策を容易に比較判断できる数値目標・期限などを明確に示すべきもの。

焦点

・自治体の立場は、三位一体の改革は、国と地方のあり方を問う争点。マニフェストを踏まえ、大いに議論してほしい。
16年度予算編成時に試算した、平成17・18年度の財政見通しによれば、財源不足がさらに236億524億円に膨らむ。鳴りもの入りの三位一体の改革（権限と財源をセットで移譲）は、地方の浮沈にかかわる争点であり、単純な地方切り捨ては断じて許してはならない。

夢県土いわて

地方分権社会を目指して

今が我慢のとき

質問

知事が多用する「身の丈」の認識について伺う。地方

分権社会の実現と共に、夢県土実現への我慢の時期と認識すべきか。

知事答弁

歳出規模を歳入に見合ったものに。平成18年までに40の政策を着実に推進し「心の豊かさやゆとりを実感し安心して暮らせる」地域社会を実現したい。今は飛躍への準備・助走期間と位置づけたい。

私の視点

知事は「岩手型の地域づくり」を提唱している。東京とは正反対の地域づくり。つまり東京の高コスト体制を反面教師とし、多少外見が悪い野菜・規格外のものでも、相互の顔が見える人間関係を基本にした地域づくり。「頑張らない宣言」がその原点のようである。

低投票率問題

参院選関心72パーセント

投票行動は63パーセント

質問

投票率の低下について・若年層の政治・選挙の無関心層の増傾向をどう受け止めるか。併せて対策を伺う。

知事答弁

県選管の意識調査では、過半数が関心ありの傾向。年代が高くなるにつれ若年層に無関心が増えていく。

・次代を担う層だけに憂慮すべきこと。これからの社会は、自分たちで築こうという意識を強くもってほしい。

・対策として①学校教育や社会教育の場で、選挙の重要性を十分教えることが重要。②政治をより身近なものに感じさせるための努力が必要と考える。

私の視点

参院選公示前の世論調査(県内)によれば「関心ある71・8%」で、年代別には60代83・7%で、年代が下がるにつれ低下し20代51・9%が最低。しかし、結果は63・3%に終わり3年前の参院選比2・65ポイント低下した。

若者たちはなぜ投票に

いかないのか…、何が必要か

「新たな社会教育の在り方を探る」特集報道がある。その投票行動の分析には「投票したい人と政党あり。政治に関心あり。社会・政治を変えたい」の積極派が35%。対して「権利・義務、家族に言われて」が58%で消極派が圧倒的に多い。

行政無関心層の予備軍が潜在されている予告である。若い人たちの考えることと、政治の世界との溝が大きすぎる。政治家自信が目線を変え「若い人たちの周辺に接近した政治」が求められている。「資料・岩手日報」いわて参院選より」

民間公益団体

NPOとの協働を推進する

質問

知事は県内各地の各団体、NPOとふれあいトークを実施しているが、出された意見、要望等へのフォローアップは、併せてNPOの健全な発展を期したい、展望を伺う。

知事答弁

出された課題は可能な限り県政に反映させるよう努める。直ぐに実現できないものについても検討重ね実現に努力する。残された課題の処理状況については、毎年予算措置等も含め結果を翌年3月に公表している。

市町村の分野に関わる提言等につ



熱心に中平県議の質問に聞きいる傍聴団

いては、その趣旨に沿い要請している。特に重要なものについては振興局と市町村との連携をはかり、知恵を出しあい実現に努力している。今後ともフォローしていきたい。

NPO育成のため運営基盤の強化を図る目的として、平成15年から3力年間集約的に支援している。官から民へという流れのなか、NPOとの協働を推進する。自主性、自立性が高まるものと考えている。

合併問題

17年3月を目指して

質問

市町村合併に関する知事の基本姿勢（現況と課題、リーダーシップ）について伺う。

知事答弁

①法定協議会6組織、15市町村が参加。法定期限の17年3月を控え、気運が高まっていると認識する。特例法期限を目指す市町村に対し合併支援プランに基づき全庁挙げて支援する。②枠組み構築中または決まっていない地域については、要請に応じて議論に加わるなど、助言や情報提供したい。③自立が困難な市町村については何らかの補完措置が必要。地方制度調査会の議論を踏まえ合併新法が施行される来年4月以降明らかになりたい。

私の視点

平成12年に県が示した「広域合併行政指針」が置き去りにされた感がある。

携帯不感地域問題

あまねく受信できる適切な対策を

質問

IT施策・携帯電話不感地域の解消、地上デジタル放送難視聴地域解消に事業の選択集中の観点から積極的行政投資



今泉農水部長

地産地消問題

質問 社会基盤整備は選択と集中の課題。久慈地域における落石箇所解消率12%。対して事業予算は、13年度比42%だ。この現状をどのように考えるか。

県土整備部長答弁 ①16年度は継続箇所を重点的に整備する。新規の採択は、緊急性の高いものから優先的に措置したい。

②社会資本の整備は従来のハード事業に加えソフト的な対策を併せ実施する。②いわゆる「ローカルスタンダード」を導入するなど、事業内容や実施のあり方を不断の検証により事業推進に努める。

質問 地産地消推進への課題・学校給食の場で児童生徒への啓発施策は。又、地元産原料の安定的確保と食品加工体制の整備支援の県体策を伺う。



山口地域振興部長

に目を向けられたい。

山口地域振興部長答弁 携帯電話について①採算性など条件不利地域、観光地を有する地域等について国庫補助制度を活用したい。②情報発信手段として重要度が増している。通信事業者と調整を図り不感地域の解消に努めたい。

・地上デジタル放送について①全国あまねく受信できるように適切な対策を講ずべきもの。②全国知事会場で提起し、本県のような地理的に不利な地域には、国において政策的に配慮するよう提言した。今後も国、放送事業者が責任を持って講ずるよう働きかける。

財政運営問題

港湾問題



佐藤教育長

農林水産部長答弁 地元産原料の安定的確保の仕組みをつくるため、市町村農業団体等と連携し、早期に必要な生産体制整備を支援したい。

教育長答弁 「食育」の面から捉え、生きた教材、郷土食など地域の特性を活かした教育を展開し、食材へのこだわりや地産地消の醸成に努めている。

建設用石材鉱産物等

貨物量の増大に努めたい

質問 港湾の利活用のため、アクションプランの迅速な実行に向けての取り組みは。

県土整備部長答弁 「ビジョン・アクションプラン推進協」を設置した。久慈港については振興局、久慈市、地域の産業界で構成するアクションプラン協久慈部会で、ケイ石や建設用石材鉱産物の発掘による貨物量の増大に取り組む。

公共事業執行問題

質問 公共事業を施行にあたり各事業主体間の調整により、工期の短縮、費用の削減など効率的予算執行が可能。縦割行政の改善が求められていると思うが。

県土整備部長答弁 事業主体の違いや、工事の特性から調整困難な場合もあるが、効率的予算執行に努めるよう一層の調整に努めたい。

私の視点

毎年繰りかえされる同一箇所の工事、事業予算の調整は難しいとするのではなく、全体像を把握した事業執行が厳しい財政状況下、一層求められている。

新幹線とアクセス

自動車道の整備を早期に…

波及効果に実感もてない

質問

県北の観光振興と八戸地区とのアクセスの充実、整備について



橋本県土整備部長

・東北新幹線盛岡・八戸間の開業に対応したアクセス・八戸久慈自動車道等の環境整備がまたれる。早期着工に向けての所見を伺う。・八戸延伸の利便性は向上したが、観光面への波及効果に実感をもてないが。

県土整備部長答弁

「先ず八戸久慈自動車道の「整備計画区間」への格上げに向け、国に働きかけて行く。併せて主要地方道八戸大野間等の道路改良に努める。

・三陸ならではの地域資源の発掘、広域観光リートの設定等引き続き地域の魅力ある商品化を働きかけているところだ。

私の視点

新幹線八戸延伸後の久慈地域アンケート(H15)は、半数近くが便利さを感じ、一方地域産業への経済効果への期待が6割強。また地域間の交流・連携面では4分の1の人が変化を感じている。インフラの整備とともに、資源の特性に付加価値を生み出していかなければならない。

雇用・産廃問題

雇用対策に 対策局設置

県境産廃量計画の6倍に

質問

知事のマニフェスト(2つの緊急課題) 雇用対策と県境産廃処理への取り組みと達成率は。

知事答弁

雇用対策 対策局を知事直轄の組織とし、昨年6月に設置。組織のミッションを果たしており、現体制で十分と考えている。

・進捗状況(15年度分) ①サービス関連産業新規雇用創出・目標30000人に対し、3340人で111・3% ②新規高卒者の就職率 目標の90・5%に対し91・8% ③新規大卒者の就職率は目標83・5%に対し86・9%。何れも目標は達成したが、なお一層の雇用創出に努める。

・産廃処理対策は本年から撤去作業が本格化する。①処理量が増え特別管理廃棄物が当初の2万7千立方メートル・3年撤去の計画が、汚染土壌を含め6倍の15万8千トと判明。6年程度を要す見込みが、平成24年までの見とおしである。

私の視点

・県南の家畜飼料製造業者が、1730トの廃棄物を放置し改善命令が出された。経営が行き詰まったためのもの。事業活動による廃棄物は排出者の責めとある。この種の事案が後を絶たない。常時の監視又強化が必要である。・緊急課題と据える雇用対策雇用対策局を組織し、進行中で目標達成とは云え、久慈職安の有効求人倍率は依然として県内最低。特に若者のそれは地域社会に大きな陰を落としている。今、実効性のある対策を講じなければならない。



終わりに

18項目にわたる県政の今日的課題を重点に質しました。紙面の都合で、簡潔な記述に努めました。持ち時間30分の要約であることをご理解下さい。他に中心商店街活性化や補助金問題などを取り上げました。なお、質問全文、要旨は中平事務所にありますので、ご希望の方は事務所までご連絡下さい。

◇◇◇参院選を終えて いま◇◇◇

7月21日内閣府は、04年度経済成長率を3.5%に上方修正した。翌22日に緩やかな中小企業への波及、遅れる景気回復の経済記事があった。

①貿易黒字36.9%増 1兆1,470億円②工作機械受注 1兆円超確実、7年ぶり。いずれも外需に支えられたもの。対して一般市民のふところへの影響は厳しい。

①消費者物価指数やガソリンの高騰②コンビニ売上高3.7%減(5,360億円)③新設住宅着工戸数は4か月連続減少④雇用はミスマッチで鈍化の就職前線・完全失業率4.9%と高水準、とある。

さきの参院選は、政権交代の手がかりをかけた選挙。岡田代表は「意志ある選択を…」と懸命に訴えた。結果は改選議席過半数を、民主党にもたらした。「政権の終わりの始まり・中央紙社説」。一方小泉さんは「逆風のなか、よく安定多数を与えてくれた」と。年金問題は云わずもがな、政治の目線は、中小の企業や庶民の台所事情に背を向けている。

増田知事は、6月議会で中平県議の質問に「三位一体の改革は、国と地方の在り方を問う争点」と言い切った。岩手が抱える風土性を見極め(身の丈にふさわしい)県民の生活をまもる、さきがけになって欲しい。

民主党決起大会で、藤原良信県議会議長は「…延々と続く政権交代のないのが、最大の不幸…」と訴えた。今、民主党に寄せられた課題は、支援頂いたすべての方々・生活者の位置に立って、地についた日常活動の展開である。

有難うございます

昨日の選挙、主浜氏の当選を非常に喜んでおります。私も何度か中平さんの後援会に出席し、主浜さんと民主党を応援するようになり、政治にも興味を持つようになりました。主浜さんが日本を変えてくれるような気がします。今回の選挙は住民票を異動し、直接参加できませんでしたが、非常に興味を引く選挙となり、主浜氏と民主党を応援します。

がんばってください。(要旨)

[7月12日にT様よりのメール入信]

会報は今後随時発行します。中平に対するご意見・ご要望などをお寄せ下さい。

編集後記 懸念された岩手選挙区の投票率は、全県で63・33%(前回65・98%)。有権者113・4万票。これを前回並の投票率で試算すると7万4千票に相当し選勢を左右する数だ。さて岩手選挙区は、民主党が相手候補を6万2千400票の差で勝利したが、スカッとしなない。投票率60%を割った市町村は、衆院2区内に集中。とりわけ久慈市56・14%は最下位。せめて郡部平均なみと仮定すると2区内では、2万票相当、やはり選勢を動かす数だ。久慈市および郡部の出稼者約3千500人、うち半分の人が投票した場合、沿岸北部の選勢が動く勘定。加えて久慈市分の無効票約1千200票。これは比例区票との関連が予想され、投票区ごとの選勢が動く蓋然性が高い。有権者一人ひとりの票の重みを感じる。

中平ひとし事務所からの「お知らせ」

6月議会に付された議案などをご覧下さい。岩手県が出資している財団、社団など、26法人あります。中には◇肉牛生産公社 ◇スポーツ振興事業団 ◇育英資金奨学会 ◇農業公社 ◇グリーンピア田老などに関わる事業報告、計画書などが閲覧できます。

中平ひとし事務所

住所 〒028-0023

岩手県久慈市本町一七

電話 〇一九四-五三一〇一一

FAX 〇一九四-五三一〇一三六

http://www.nakatai.net
e-mail:hitoshi@nakatai.net